



堀場製作所OB会

会報

通巻34号

発行日 平成25年8月31日

発行者 堀場製作所OB会

川越 幹

編集者 酒井 俊英

◆第17期第2回定例幹事会

◆第17期東京支部定例会

◆ボランティア部会

- ・桂川クリーン大作戦

- ・鴨川を美しくする会に参加

- ・鴨川茶店
- ・鴨川クリーンハイク
- ・鴨川納涼

◆キャリア部会

- ・KSVU(京都シニアベンチャークラブ連合会)

- ・京モノレンジャー

◆クラブ活動報告

- ・山遊会

- ・カメラクラブ

- ・グランドゴルフクラブ

◆OB会行事報告

- ・春の懇親会(がんこ高瀬川二条苑)

- ・レジャー例会・・・ 永源寺

◆東京支部一泊懇親会

◆会員寄稿文

- ・東京マラソンコース徒歩の旅・・海野興一郎
- ・年をとっても元気で楽しく・・・梶並 強平
- ・フェイスブックで発信・・・・・・藤田 巖
- ・東日本大震災でのボランティア・・石黒 英憲
- ・ドイツでの近況報告・・・・・・野口 進治

◆OB会だより

- ・堀場OB会ホームページ紹介
- ・新入会員紹介
- ・年間行事計画について
- ・会報、ホームページへの寄稿について
- ・OB会入会手続きについて

◆ホリバ・ニュース・やぶにらみアラカルト

◆編集後記



京都市下京区の阪急烏丸駅から南西に5分ほどの場所、繊維関係の商社が多く、商用車両が行き交うところに、ご神体が七福神の中で紅一点の美女弁財天を祀る繁盛神社があります。この神社は、商売繁盛のほかに家内安全、諸芸成就、良縁成就のご利益があるとされています。明治維新の神仏分離によって現在に至っています。

景気回復を願って、一度行って見てはどうでしょうか。

(川越 幹 記)

第17期 第2回定例幹事会

平成25年4月9日(金)14:00~16:00 OB会室にて、幹事全員(石黒英憲、川越 幹、小谷昌男、酒井俊英、谷口義晴、田中光子、中村十規人、中村正博、船越 健、森山晶成、山本広太郎(五十音順)の出席にて、首題の定例幹事会が開催されました。

報告・討議事項等の概略をお伝えします。

◇記念誌編纂完成

一昨年の堀場製作所OB会設立15周年記念年次総会は、大成功に終わり、これを一つのエポックとして、OB会の歴史を書きとどめるため、かねて「設立15周年記念誌」を編纂していましたが、先期8月に校了し、500部を作成・皆様に配布致しました。

残部は、約250部あり、今後新規入会者他、OB会のアピール等有効に使用するため会員の皆様も必要時、OB会までご要求下さい。

◇キャリア活動

京都市の小学生の理科教育の支援として、モノづくり工房ボランティア活動に注力していますが、いろいろ困難なことがあり、教材の開発・準備作業等にOB会予算が予想外の支出が発生し、全体予算のバランスを取る意味から、OB会の皆様ご期待の泊旅行を中止せざるを得ず、お詫びすることになりました。

今後の教材は、コストダウンの実施と、実用性を向上させることになりました。その他の教材として、塩分計等も検討することになっていきます。また別途モノ作り試行ボランティア(土、日)もチャレンジすることになりました。

昨年度のモノづくり工房学習全体では、この5年間で参加校も急増中です。今後実活動者を増やす必要があるため、会員の積極的なご協力をお願いいたします。今年度のモノづくり活動は9回教材584個必要となり、工房学習は一回当たり4~5人の編成で継続することになりました。またKSVUのキャリア活動に積極的に参加し、ボランティア事業にOB会員の経歴と技術を大いに発揮してもらうことになりました。

◇ボランティア活動

10月14日鴨川クリーンハイク、11月4日同定例ハイク、新たに2月17日桂川クリーン大作戦にも参加しました。今後は定例活動とする

ことになりました。さらに新たなボランティア先の検討もすることになり、会員からの提案も期待しております。

今後の4月13日、14日鴨川茶店、4月27日クリーンハイク、同6月2日、8月3日、4日鴨川納涼への参加と計16名の参加体制となりました。

◇東京支部OB会活動報告

東京支部も定例会を期4回開催し、本社から代表幹事が年に一回は、参加しています。その他研修会、見学、懇親会を予定しています。その他、恒例の会社への貢献として9月5日の分析展をサポートし、今回もホリとの懇親会を持つ予定です。

◇夏の懇親会(冬と合せ年間2回開催)

8月24日(土)18:00~がんこ高瀬川二条苑となりました。

◇レジャー例会

6月21日(金)滋賀県永源寺方面、八風の湯に行くことになり、集合、解散は「近江八幡」駅とすることが決定しました。

◇会報第34号(7月号)発行、体制(酒井)

会報編集を新たに編集者を指名し、当該号から作成することになりました。

◇第18期新幹事体制の検討

・新規幹事の選出

OB会のさらなる発展を展望し、新しい発想を期待し、現幹事からの若返りを行い、大幅人事変更の検討をスタートしました。また新しい制度も発足させ、幹事の役割分担の適正化を実施することになりました。

・現幹事の4名は、第18期中を中途に「アドバイザー」として、会社との関係等重要事項のサポート及びアドバイスをを行うこととなりました。

・新事務局体制

現事務局は廃止し、各担当の責任分担体制として、作業を平準化し、また迅速な決定と通知が出来るように計画中です。但し、諸活動全体の管理と最適タイミングの確認と指示等は、代表幹事が采配を振るうこととなります。

◇その他

OB会会則を始め、諸規定の見直し等を検討することになりました。

(川越 幹 記)

第17期東京支部定例会

第2回 定例会

東京支部は12月14日(金)13:00～15:00 TSO プレミアムルームで第2回定例会を開催しました。今回は佐藤常務をお迎えし、1月に開催される60周年記念式典に全員で合唱するHoriba One Company Song「Joy & Fun」を紹介して頂き、会社概況のご報告を詳しくして頂きました。

次に海野副幹事より、配布資料「一泊懇親会(ゴルフ付き)案」に基づき、詳細説明され了承された。次に谷口幹事より、11月2日本社で開催された総会と11月8日開催された幹事会報告され、今期の幹事体制は前期と同じで川越代表幹事、小谷副代表、山本副代表と新任2名の幹事が加わり、梶並幹事が退任され11名の体制と報告がされた。さらに、5月に亡くなられた大沢様宅への弔問については、すでに済ませて

いますとの先方様の御意向で、弔問はせず堀場OB会からの対応遅れのお詫びの手紙と供花料の送付を致しましたとの報告がされた。また、配布資料「東京支部会員及び御家族の皆様へ」に基づき、今後OB会員家族の方より、急な連絡をしたい場合のキャッチルートとしての支店総務の連絡先が説明された。最後に次回開催の4月19日(金)には川越代表幹事に来て頂く旨報告がされた。

以上会議後、定例の「そば処大新」で忘年会を行い、喫茶後散会となった。

(海野興一郎 記)

出席者:

寺西英三,草鹿悌二,村木泰雄,土屋富夫,
谷口義晴,横井広秋,海野興一郎

第3回 定例会

東京支部は4月19日(金)13:00～14:30 TSO 33応接室で第3回定例会を開催しました。

今回は、来期より新体制になる前に、9年間代表幹事を務めてこられた川越様をお迎えし、本部での最近の活動状、特に今後は、ボランティア精神に活動「モノづくり工房」に力を入れていきたいとの報告がされた。さらに1月26日に開催された堀場製作所創立60周年記念式典の報告を頂いた。次に谷口幹事より、この程会員の大志万氏がつくば地区へ移住され、東京支部OB会に参加される予定であるとの報告があった。さらに谷口幹事の任期が後1年であり、海野副幹事は来年には京都移住予定もあり、幹事交代の検討が必要、来期より副幹事に新井氏を選任し2名体制にする、その後幹事をお願いする方向との報告があった。また東京支部にゴルフクラブを作り、OB会に入会しやすい環境づくりとしたい、まとめ役を新井氏をお願いする、との報告があり了承された。次に海野副幹事より、配布資料「一泊懇親会(ゴルフ付き)最終版」に基づき、鬼怒川温泉/日光東照宮の一泊旅行の詳細な説明があり、了承された。最後に次回開催7月19日(金)今回と同じ33応接室で開催予定と報告された。会議後、定例の「そば処大新」で懇親会を行い、喫茶後散会となった。

フ付き)最終版」に基づき、鬼怒川温泉/日光東照宮の一泊旅行の詳細な説明があり、了承された。最後に次回開催7月19日(金)今回と同じ33応接室で開催予定と報告された。会議後、定例の「そば処大新」で懇親会を行い、喫茶後散会となった。

(海野興一郎 記)

出席者:

川越代表幹事,寺西英三,土屋富夫,
谷口義晴,玉置健三,横井広秋,海野興一郎



第4回 定例会

東京支部は7月19日(金)13:00~14:00 TS O 33応接室で第4回定例会を開催しました。この程大志万氏が関東に移住され、今後東京支部に参加する旨ご挨拶の後、谷口幹事より、配布された議事内容に基づき、18期の体制は幹事は谷口氏、副幹事は海野氏に新井氏を加え、2名で行くことで了承された。18期定例会等年間行事日程については、一部日程を変更し承認された。次に、9月5日の堀場社長との懇談会の場所は例年とは異なり、ホテルマンハッタンで行う旨地図で説明がされた。来年5月末の一泊懇親会として修善寺と箱根が候補として上がっていたが、費用、利便性より、修善寺で検討することとなった。また、OB会に入り易くするため、東京支部に新井氏を部長としたゴルフ部を本部に申請中であることが

報告された。

最後に、次回(第18期第1回定例会)は11月1日(金)33応接室で開うとし、会議後、定例の「そば処大新」で懇親会を行い、喫茶後散会となった。(海野興一郎 記)

出席者:

寺西英三, 大志万繼影, 土屋富夫, 谷口義晴, 玉置健三, 新井章生, 海野興一郎



ボランティア部会

桂川クリーン大作戦

昨年から、参加を検討していました「桂川クリーン大作戦」に、今年2013年2月17日(日)に参加しました。御参加頂きました、川越さん、梶並さん、森山さん、村瀬さん、お疲れ様でした。

当日、我々5名は松尾橋右岸(西側)に集合して、9時になるのを待ちました。前夜からの雪が、薄っすら積って空は曇りのため、大変寒い天候となりました。

地元のまとめ役の御挨拶と、諸注意の後、嵐山東公園のゴミ集積所(北)に向けてスタートしました。途中にはタバコの吸殻や、飴の包み紙などや、プラスチック系の細かい破片などが多かったです。1時間余り歩くと、目標地点の公園に到着しました。

この後は、自由解散となり、我々は元の

出発地点にもどる事にしました。松尾橋付近の喫茶店に立ち寄り、大きく膨れたお餅の入った“おしるこ”を食べながら、懇親を深め、ボランティアの後の満足感と共に、暖かい気持ちになりました。来年も、また、参加したいと思います。

(酒井俊英 記)



鴨川を美しくする会主催「第39回鴨川茶店」が2013年4月13日と14日の2日間にわたり、植物園前の鴨川河川敷公園「なからぎの道」で開催されました。

堀場OB会は、鴨川茶店の安全管理の役割として、旭丘中学校、14日 加茂川中学校)、京都府警平安騎馬隊による写真撮影会、他に特産品の展示販売が催南側進入口付近での交通整理、搬入業者の誘導、来場者への道案内の役割をおこなっています。

例年通り、河川敷に茶店を設け、煎茶と花見だんご、琴と尺八の演奏、吹奏楽の演奏(13日されました。

今年の桜は例年より早く、枝垂れ桜はすでに満開を過ぎていました。当日、天候に恵まれ、桜の時期が過ぎたにもかかわらず多くの人出があり、よい日和の中で、にぎやかに過ごしました。



派手な「鴨川茶店」のかんばんに以前から気にはなっていましたが、なかなか参加する機会がなく、今回新しい発見をすることができました。

(三橋 泰夫 記)

参加者:

- ・13日:酒井 俊英、池田 俊明、三橋 泰夫
- ・14日:石黒 英憲、宮崎 育雄、船越 健

今回はじめてOB会活動の一環として『鴨川クリーンハイク』に参加しました。

活動日は6月2日(日)、天候は曇り。清掃エリアは、鴨川五条から丸太町まで。

渡されたゴミ袋と清掃トングでタバコの吸い殻やお菓子類の包装等いろんなゴミを拾いました。



ゴミの量は思っていたより少なく、鴨川の両岸は家族ずれやジョギングする人など休日を楽しんおられる方が多くおられました。それとコガモ、セキレイ、ヨシゴイ、カワウ、カルガモ等の野鳥や、アユやニゴイ、オイカワ等の魚など多くの生き物を見つけ、ゴミ拾いというより自然観察会といった感じでした。

解散後のビールも美味しかったし、これからも是非参加したいと思っています。

(中村 十規人 記)

参加者:

中村 十規人、中村 正博、酒井 俊英

鴨川納涼イベントの初日8月3日は、快晴に恵まれ、予定の17時より少し早く始まりました。子供たちのパトントワラーによるパレードで始まりました。早々に来場者に道を空けていただく先



導役として活動を開始。16時には県人会の屋台や啓発展示などもほぼ準備が終わり、未だ日差しも強い状況でしたが来場者もそこそこ来られ、うちわの無料配布なども始まっていました。17時になると、来場者も増えてきました。

担当する鴨川遊歩道の南側は北側と比べ幅が狭いため、昨年までは通り抜けるのに苦労するほど混雑しましたが、今年は混雑する県人会の屋台が北側に、比較的空いている啓発展示が南側となったおかげで、人の流れは順調でした。

18時を過ぎると日差しも弱くなり、適度な風も



吹いて暑さが和らいでくると来場者が増えてきました。南側でも沖縄県人会の沖縄ドーナツやゆかたの無料着付け、更にダーツや金魚すくいなどの前は人だかりが出来、少し歩きにくい状況です。

19時を過ぎると更に、来場者が増えましたが、混んでいる場所は人気の屋台の前だけで、昨年のような渋滞ではなく楽しめるレベルでした。20時前頃が人の多さのピークで、その後は徐々に減少。21時半頃には予定量を完売したのか閉店する屋台もありました。北側の様子も見に行きましたが、遊歩道の幅が広いので大きな混雑にはなっていませんでした。三条大橋から北では、風鈴灯が設置されていますが、来場者が静かに楽しんでいます。また、屋台では殆どの店でアルコールを販売していますが、騒ぐ人も居ません。巡回していると、小さな子供を連れた家族連



や海外からの観光客がかなり目に付きました。舞台で行われる演芸や、フラダンス等、長く見ること無く、まじめに巡回に専念しておりました。

2日目は夕立で、中止になり、傘の用意もしていなかったそうで、大変だったそうです。

猛暑の中での活動、本当にお疲れ様でした。

(村瀬 潤 記)

参加者:

8月3日(土) 村瀬 潤、酒井 俊英

8月4日(日) 周田 光男、中村 正博

キャリア部会

KSVU(京都シニアベンチャークラブ連合会)

KSVU(京都シニアベンチャークラブ連合会)は5月21日の総会で、堀場製作所OB会の小谷昌男氏が理事長に就任し、新たな活動に向けて動き出しました。(以下、KSVUのホームページから抜粋)

KSVU理事長の御挨拶

NPO法人京都シニアベンチャークラブ連合会(KSVU)は昨年12月に創設15年、NPO法人化5周年を迎え、本年度はさらに活動を充実し次の節目を目指すスタートの年となりました。

経済情勢も長いトンネルから抜け出せそうな期待感が出てきているとはいえ、中小企業にとってはまだまだその恩恵を受ける状況には至っていないうえ、電気料金やガソリンの値上がりは企業の経営に極めて厳しい環境にあります。当連合会も企業OBの持つ経験と知識をもって地域社会に貢献するというこれまでの基本路線を踏襲しながら、以下の主要事業への取り組みを中心にして、KSVUでないとできないことを地域社会への貢献と発展に役立てる活動をしてまいります。

◎主要事業

- ・中小企業・ベンチャー企業への各種支援事業
- ・省エネ診断・省エネ指導事業
- ・未来を担う子供たちへの教育支援事業
- ・地域貢献事業
- ・地域社会・高齢者の社会参加・健康増進も推進

NPO法人京都シニアベンチャークラブ連合会
理事長 小谷 昌男

◎今年度注力する活動

- ・企業OB人材を活用し、中小企業やベンチャービジネスの経営改善や専門技術のコンサルティングおよび人材育成を行う事業
- ・地域の青少年の教育を支援する事業
- ・地域貢献を目指した事業
- ・現行クラブ会員の拡充と新規クラブ会員の加入促進

◎今年度実施する事業

- ①「中小企業・小規模事業者ビジネス創造支援事業」に参画するほか、京都市の「地域プラットフォーム事業」を(公財)京都高度技術研究所と連携して推進する。
この事業では会員である企業OB人材が中小企業やベンチャー企業の経営や専門技術の支援を行います。
- ② 環境問題もさることながら中小企業にとっては省エネ＝電気料金の削減は経営上の大きな課題となっている。昨年度の活動からさらに体制の見直しをおこない京都府、京都市とも連携しながら省エネ診断事業の充実拡大を図る。
- ③ 京都モノづくりの殿堂・工房学習支援の「育む会」事務局として、そして会員が「京モルンジャー」として科学の面白さ楽しさを小学生に体験させる活動を行う
- ④ 当連合会メンバークラブの相互研鑽・知識向上を図る目的で講演会、企業見学会を実施する。



◆堀場OBベンチャークラブ(HOVC)の取組状況(上記の番号に対応)

- ①既に、何件か対応した実績があります。
- ②今年度から、HOVCの中から3名が省エネ診断員として活動中です。
- ③次の記事にも有るよう、堀場製作所の工作授業プログラムである「世界に一つの温度計」を始めて3年目になり、人気も高いです。
- ④毎年、2回程度の見学会が有る。昨年は新築なったばかりのOMRONヘルスケア事業部の研究所と、ローム本社の見学が有りました。

(酒井 俊英 記)

京モノレンジャー

今年も生き方探求館工房での体験工作授業が5月17日から始まりました。掘場製作所としては、昨年に引き続き温度計の工作を進めていますが、今年は特に、2点温度表示型の温度計を製作する事を企画しました。第1回目(5月17日)は、材料の都合で、0～50℃の間の10段階が区別できるプレミアム温度計でしたが、第2回目の5月28日に、2点温度表示型の初めての授業が行われました。2点というのはエコの観点から、夏の冷房を入れても良い気温28℃以上と、冬に暖房を入れても良い温度18℃以下かどうか分かるということです。家庭で、地球温暖化防止活動に協力してもらおうと言うわけです。この日は、やはり、ホッチキスでの接触に問題が発生し、その解決に苦労しました。しかし、次(6月7日)からは、センサーの撚(より)線と基板のリード線を振り合わせて、接触の問題が起りにくいように工夫しました。

乾電池を取り付けたら、完成ですが、スイッチを押して、緑色のLED(18℃以上で点灯)が点いた時の子供達の嬉しそうな顔は、我々京モノレンジャーの喜びです。完成した子供達は、その温度計を使って、冷たいもの、熱いものに当てて、LEDが消えたり、点いたりすること確かめ、実

験を通して温度を体感しました。

4回目の6月10日は、78名(40名+38名)と、



多くの子供達の授業でしたが、無事に問題無く、終わることが出来、漸く安心することが出来ました。京モノレンジャーの皆さん、お疲れさまでした。

(酒井俊英 記)

参加者:

秋山重之、石黒英憲、池田俊明、川越 幹、
中村正博、萩原孝一、三橋泰男、村瀬 潤、
森山晶成

クラブ活動報告

山遊会

—第3回 定例総会・第27回 例会—

- ・実施日：平成25年3月30日(土)晴・31日(日)曇
- ・山行先：花背山の家 雲取山(911.1m)
- ・参加者：池田俊明、下川和子、萩原孝一
下川博司、倉原政治、丸山 博
中村正博、宇野久仁男、渡辺正資

第3回定例総会と第27回例会山行を兼ねて京都市の野外活動施設「花背山の家」を利用した1泊行事となった。「花背山の家」は京都市教育委員会が市内の小・中学生の野外活動施設として運営されているが、空きがあればその他の団体も利用可能である。施設・環境・料金の全てにおいて申し分なし。3月30日午後2時40分出町柳駅に集合し2時50分発の京都バス広河原行に乗車。おりしも桜の満開とあって高野川沿

いの道は大渋滞。出発直後から大幅に遅延し、午後4時30分頃花背山の家に着。オリエンテーションを済ませ宿泊棟(ロッジ)に入り早々に入浴。6時から食堂でバイキングの夕食を頂いた後、ロッジに戻り、7時からミーティングルームで総会を行う。結論として第28回山行は4月26日(金)比良山系堂満岳か武奈ヶ岳、第29回山行は5月31日(金)六甲山と決まった。持ち寄ったアルコールとおつまみで歓談し9時にお開き、消灯時間の10時を30分早く就寝。翌31日6時30分起床、決められた通り、夜具を片付けシーツを畳む。7時45分の朝食まで雲取山の地図を見直す。7時頃から小雨がぱらつきだし降ったりやんだり、山行の氣勢を削がれる。9時前本館前で記念写真を撮り退所。幸い雨は上がっている。9時5分バス停花背高原前で11時20分のバスで帰る丸山、中村両氏と別れ、スキー場跡の横を登山口へ向かう。よく手入れされた植林の谷筋を登り9時40分寺山峠に着いた。

黄色のサンシュウ、スズランの花に似たアセビ(馬酔木)がかわいい。少し降って一の谷の出会いから谷を詰め雲取峠10時25分着、風もなく薄日さえ差してきた。右にトラバースして稜線に出る、斜面の所どころに雪が残っている。10時50分山頂到着、恒例の記念撮影を済ませ、少し早いが昼食とする。降りは二の谷のルートを取り11時25分出発、急坂を一気に降り立命館大学ワンゲル小屋に。最近建て替えられた様子で、バーベキュー用の東屋があり、ステンレスのドラム缶風呂まで完備している。12時丁度に二の谷の出会いにでた。芹生からの林道が伸びて来ている。林道を少し歩き右に林道と平行した川沿いの道に行く。細い丸太を2・3本渡しただけの橋を幾度も渡り12時35分一の谷の出会いまで戻ってきた。寺山峠まで登り、朝登った道を降り13時過ぎバス停花背高原前に帰ってきた。バス



の時間まで1時間半以上ある。別所町に向けて歩き、花竹庵のソバ屋で時間潰しのコーヒータイム。15時京都バスに乗り、渋滞を避けて全員北大路駅で下車し解散した。

－ 第28回 例会 －

- ・実施日:平成25年4月26日(金)晴・31日(日)晴一時雨
- ・山行先 :六甲山(931.3m)
- ・参加者 :池田俊明、下川和子、萩原孝一
下川博司、倉原政治、中村正博
宇野久仁男、渡辺正資、山岸 豊

計画では比良山系武奈ヶ岳の予定であったが、京都バス朽木行きは土・日のみの運行と分かり次回予定の六甲山に変更。午前7時10分阪急河原町駅ホームに集合、梅田行き通勤特急7時22分発に乗車。桂駅から3名が合流し十三駅と西宮北口で乗り換え8時32分芦屋川駅で下車。8時45分出発、芦屋川沿いに高座ノ滝へ向かう。9時10分着、滝の左岩にロックガーデンの名付け親と言われる登山家の藤木九三翁のレリーフがある。岩稜を縫うように登り、午前10時標高447mの風吹岩で記念撮影。ここからは市街地が一望できる。

ここで魚屋道(ととやみち)に合流、芦屋CCの舗装道を横断し雨ヶ峠の手前で小休止、11時過ぎ本庄橋跡を左下に見、大堰堤の横を通り七曲の登りとなる。魚屋道は江戸初期から深江浜で上がった新鮮な魚介類を有馬温泉へ運んだ道として知られ、本庄橋跡は中継点で、有馬からの迎えが来ていたとか。急坂を登りきり、山上の一軒茶屋から車道を横断して1等三角点のある山頂に12時30分到着。記念撮影の後春の陽射しのもとで車座になって昼食。食事を

終えた頃、西の空がにわかになくなり、13時丁度雷鳴一声雨が降ってきた。急いで雨具を着け傘をさす。霰交じりの大粒の雨の直撃に、近くの東屋に駆け込む。舗装道路からは水蒸気が立ち込め、ストックを持つ手が冷たく手袋を履く。低山と侮るなかれ、山の気象の変化の怖さを痛感。程なくして前線が通過し日差しが戻ってきた。13時45分六甲越から石畳の魚屋道を有馬へ降る。時折雨と雷の歓迎を受けたが15時前登山口に到着、銀の湯へ向かう。下山後の温泉



は格別だ。16時15分発宝塚駅行き阪急バスに乗るが、平日の渋滞と重なり1時間を要して宝塚駅に到着。宝塚駅から阪急電鉄で十三駅乗り換え帰京した。

－ 以 上 －

－ 第29回 例会 －

- ・実施日：平成25年5月31日(金)晴
- ・山行先：リトル比良 岩阿沙利山(686.4m)
- ・参加者：下川和子・下川博司・倉原政治・
中村正博・宇野久仁男・渡辺正資

例年より10日も早く梅雨入りし天候が危ぶまれたが、昨日までの雨も上がり初夏の爽やかな1日となった。午前7時10分JR京都駅湖西線ホームに集合、7時22分発永原行きに乗り、8時19分近江高島駅で下車。登山口の大炊神社まで徒歩で向かう。境内で準備体操を済ませ8時45分出発、自衛隊饗庭野演習場の大砲の音を応援太鼓に滑りそうな水溜りの道に行く。右手に白坂の砂山を見ながら進むとやがて石段となり、弁慶の切石を経て9時40分岳観音堂跡に到着。水分補給をして10時15分岳山山頂に、石窟の中に石の観音三尊が安置されている。一旦下り登り返したところがオーム岩だ。高島の田園風景と琵琶湖を眼下に記念撮影。かわいいベニドウダンもカメラに納める。11時出発、本日最高峰の鳥越峰(702m)を過ぎ、新緑のブナ林が太陽に映え、爽やかな稜線を進み12時5分岩阿砂利山に着いた。ここから仏岩までは直ぐのところだが、道が荒れていて危険とかで、丁度通行禁止の標識を取り付けているところであった。昼

食後記念撮影を済ませ、12時45分出発。急坂を下り鷺川越で林道を横切り、アップダウンを繰り返して14時15分寒風峠に出た。オトシと呼ばれる湿地帯を通り、涼峠から楊梅ノ滝(雄滝)の分岐に15時25分に着いた。往復10分雄滝見



物、昨日までの雨で落差40mの滝はなかなかの迫力だ。少し下って橋を渡り、雌滝見物の後比良山岳センターを左手に見ながら16時35分JR北小松駅に到着。ここで朗報入手、7月6日から11月30日までの土・日・祝について、JR比良駅からイン谷口まで1日4往復バス運行が再開されるとのこと。16時42分発京都駅行きに乗車、17時31分ホームに降り立った。

(下川 博 記)

カメラクラブ作品展示とお願い

今回は、4人の作品を掲載しました。どうかお楽しみください。

西尾勝治さんの作品は、南丹市美山町の茅葺(かやぶき)の里での見事な放水訓練のものです。



【茅葺(かやぶき)の里の放水訓練 西尾勝治】

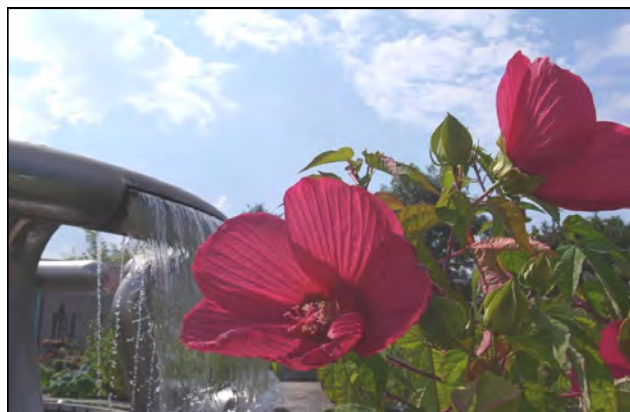
萩原孝一さんの作品は、尾瀬ヶ原からの至仏山と湿地が見事な雰囲気醸し出しています。



【尾瀬ヶ原からの至仏山

萩原孝一】

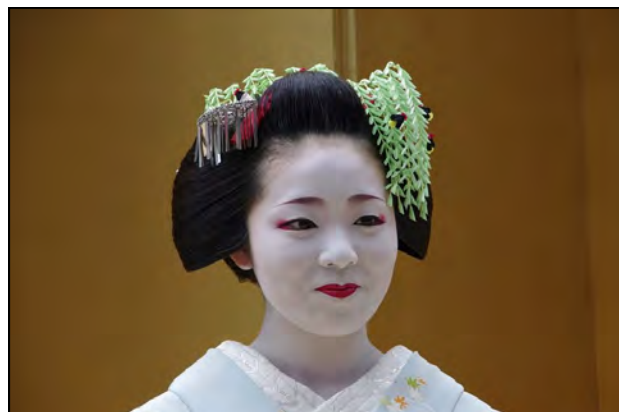
山田昌美さんの作品は、夏の赤い芙蓉で背景の水が涼しさを演出しています。



【芙蓉の花

山田昌美】

川越 幹さんの作品は、京都の五花街一つ上七軒の舞妓さんの微笑が大変可愛く癒されます。



【舞妓さんの微笑

川越 幹】

現在カメラクラブは、皆さんの作品を広く募集しております。

誌上での掲載と年次総会で展示する等出来るだ

け多くの会員に参加して頂くことを願っております。川越 幹まで連絡下さい。

(川越 幹 記)

グランドゴルフクラブ

第17期第2回 開催報告

平成25年 4月17日(水)に草津市矢橋帰帆島で開催された、グランドゴルフの例会に初めて参加しました。

穏やかな空のもと、9名の参加で、初めての参加となる小生がいきなり一番バッターでした。8名が見守る中、まだ一度もクラブもボールも使用したことのない小生が、打ち方やコツも分からないままに、とにかく打ってみました。すると、ボールがまっすぐに転がり、そのままゴールに入ってしまった。ビギナーズラックとはよく言ったものです。

さわやかな気候の下、ゴルフのように走り回らずにゆっくりと8ホールを回り、20を切るという思いもしない良いスコアでした。その後も、20台を保ち全4コースを気持ちよく回ることができました。

グランドゴルフは、初心者でも楽しくできるスポーツであることを認識致しました。ぜひ次回も皆様と一緒に楽しくプレーさせて戴きたいと思っています。

(石黒 英憲 記)

参加者:

川越 幹、梶並強平、山本広太郎、小谷昌男、萩原孝一、池田俊明、森山晶成、酒井俊英、石黒英憲



OB会行事報告

春の懇親会

2012年9月末をもって退職しました。最後の職場となりましたびわこ工場の土地は 当初の予定地とは少し変わりましたが観光バスでの見学や運動会等々私にとっては大変思い出のある場所で、環境も抜群の新しい工場で最後の仕事を終えられた事など、お世話になりました皆様に感謝の気持で一杯です。

定年から10年目でのOB会の新生になり【遅くなってすみません】しました。初めてのOB会参加は少し照れくさい様な不安な気持でしたが、懐かしい皆さんの健康で元気なお顔を拝見し、色々とお話が出来た事は何10年振りの同窓会に参加した時の様な雰囲気を楽ししい一時を過ごさせてもらいました。時間的にも限りがあり、昔話

(?)をもっと出来ればと思った次第です。

最後にお世話になりました幹事の皆様本当に有難うございました。

(竹内 幸雄 記)



レジャー例会 永源寺

平成25年6月21日(金)台風4号が九州に上陸する予報が入り、急いでレジャー例会を開催するか、天気予報を再度確認しました。当日の予報は、午前中少し小降り・午後は曇り、何とか開催することが出来そうとの判断で、参加される方に再度、開催のメールを発信しました。当日、少し小降りの中、参加者16名がJR近江八幡駅に集合、早速予約したバスに乗り込み、駅から約40分の目的先永源寺に向かいました。同寺は臨済宗永源寺派の総本山です。永源寺と言えば紅葉で有名ですが、この時期、雨にぬれた新緑がとてもきれいでした。120段の少しきついめの石段を登ると十六羅漢の石仏が点在しています。ご本尊の大屋根は琵琶湖のヨシで葺かれ草葺き屋根としては全国でも屈指の規模だそうです。自然に囲まれた静かな山中で、ひと時を過ごすことが出来ました。

お寺から、歩いて5、6分のところに有る「八風の湯」のお風呂で、汗を流し、昼食を取りました。美味しい鮎料理を頂、アルコールも少し入り、久しぶりに会って話も弾み、楽しい1日をすごしていただけ

たことと思います。

(中村 正博 記)



東京支部 一泊旅行

5月31日(金)～6月1日(土)東京支部は、鬼怒川温泉で一泊懇親会を開催した。

初日は草鹿氏、谷口氏、横井氏、新井氏に、ゲストの北村氏、北原氏に参加頂き、晴天の中、中村寅吉が設計の鬼怒川カントリークラブで、ゆったりとゴルフを楽しんだ。辻川氏、玉置氏、海野と「ホテル鬼怒川御苑」で合流。総勢9名、掛け流しのアルカリ性単純温泉に入浴後、小宴会場で飲み放題・会席料理で夕食。改めて幹事部屋に集まり、まだ飲み足りない者が杯を片手に話し込んだ、今回は若い2人も加わり仕事、ゴルフで熱の入った会話も飛び出し夜遅くまで続いた、後それぞれ就寝。

翌日は、鬼怒川に来たら、観光は日光でしょうと世界遺産：日光東照宮を参拝。ここ日光東照宮は、1636年三代将軍：徳川家光が建立。家康を神格化した東照大権現を祀った神社。私は今回で三度目だが、建物、門、塀、燈籠などに施された彫刻、装飾は相変わらず豪華絢爛そのもの。それもそのはず、ここだけでなんと国宝が8棟、重要文化財が34棟も指定されている。

京都の千年前からの侘び寂びと枯山水の文化とは全く異なる別物の文化遺産。数日前、梅雨入りしたにもかかわらず天候に恵まれ、巨木に覆われた日光の森林からのマイナスイオンを全身に浴びな



がらの境内散策。その後、年一度の一泊懇親会を大いに楽しみ、近くのそば屋で少し早めの昼食後、各自帰路に就いた。

(海野興一郎 記)

会員寄稿文

東京マラソンコース徒歩の旅

海野 興一郎

東京マラソンは、石原元都知事の発案で2007年に第一回が開催され、今年、第七回が開催された。毎年三万人参加の市民マラソンに発展した。元都知事曰く、どうせやるなら東京の名所を巡るコースにして、完全封鎖された大通りを走りながら目でも楽しめる市民マラソンにすれば、世界の市民マラソンの一つになるのでは、との思いで開催されたと聞く。私も思ったが、42.195kmを走るのはちょっと無理。それでは、歩いてみよう、挑戦してみた。

4月28日7:50新宿の東京都庁前をスタート。都庁は代々木第一体育館(旧俗称:オリピックプール)の設計者である丹下健三の設計で、1986(昭和61)年完成。以前、都庁の展望室(45階202m)に登ったが、京都タワーから見る



京都盆地とは全くスケールが違う、広大な関東平野に隙間なく建つビルの多さと高さに驚いたことがあった。その新宿から曙橋、市ヶ谷、飯田橋を過ぎ皇居沿いの竹橋に向う。

皇居は昔の江戸城である。1457年太田道灌が築城したが、秀吉が小田原征伐の際に開城。1590年家康が居城にした。当初は小規模で質素な城であったが、その後本丸、二の丸、西の丸、三の丸、吹上、北の丸を増築。江戸幕府開設後は、さらに内堀、外堀までも頻繁に増改築した。その皇居を横目に内堀通り、日比谷通りを直進、御成門、芝公園を抜け、第一京浜で泉岳寺を過ぎ品川駅前に着く。

品川は、東海道五十三次の最初の宿場であったが、現在はプリンス系の高層ホテルが建ち並ぶ。ここ品川駅前で折り返し、来た道に戻り、日比谷交差点で右折、晴海通りを銀座四丁目の服部時計店ビルで左折、銀座通りを日本橋交差点で右折。茅場町辺りで昼食後、さらに水天宮を越え、浜町交差点で左折、雛人形や五月人形で有名な浅草橋を過ぎ、江戸通りを浅草寺雷門に着く。雷門は江戸時代実在していたが焼失、現在の門は、病気だった松下幸之助が浅草寺参拝で治ったお礼にと、1960(昭和35)年門と大提灯を寄進したもの。その前を過ぎ、東武浅草駅に着く。

ここまで来ると東京スカイツリーがえらく高く見える。それもそのはず高さ634m。ちなみに東京タワーは333m、京都タワーは131m。最上展望デッキ『天望回廊』までで、450mもある。このタワー2012(平成24)年2月完成。今でも、入場希望者が多いため、日時指定の予約が必要。そんな事で、まだ登っていない。

東武浅草駅を右折、江戸通りを戻り、銀座四丁目で左折、築地本願寺で左折。このお寺、元は「江戸浅草御坊」と言い、1617年西本願寺の別院として、浅草近くに建立されたが、大火で消失。その後佃島の門徒らが、海を埋立て、土地を築き再建。土地を築くが『築地』の由来。現在の本堂は1934(昭和9)年完成の鉄筋コンクリート製。勝新太郎を含め芸能人の葬儀場でも有名。このお寺を過ぎ、昭和の下町が残る月島、高層マンションによる再開発中の豊洲を越え、16:00東京ビックサイトでゴール。



ここビックサイトは1996(平成8)年4月に開業。日本最大の展示ホールや、千人収容の国際会議場がある総合コンベンション施設。千葉の幕張メッセ、有楽町の東京国際フォーラムと共に、大規模展示会等の各種イベントが、毎週の様で開催されている。

ところで、歩き目線で見える東京は、江戸文化、明治・大正・昭和初期の近代化文化、戦後の昭和高度経済成長文化、昭和末期のバブル文化、平成のバブル崩壊後の文化、これらの文化が時代と共に自然淘汰され、さらに街毎に色・香りが異なるまでに進化しながら、隙間なく広がり、成長し続ける大都会であることを再認識した42.195kmであった。

— 以上 —



IPS細胞の再生医療等により、そう遠くない内に、“人生100年”の時代がやって来る。この長い人生を3つに分けると、

第一ステージは生まれてから社会に出るまでの期間、つまり“学びの時代”である。

この期間は、何かにつけて、保護されている期間である。

第二ステージは、“学びの時代”で得た資源を活用する“働きの時代”である。

この期間は自分で生活を確保しながら、将来に向けての、人的資源と物的資産を残す期間である。

第三ステージは、退役後、自分の人的資源や物的資産を、有効に活用する“遊びの時代”である。

今までは、勉強、会社、家庭等に対する重荷があったが、これからは、これらの足枷も無くなって来る。自分が常々本当にやりたいと思っていた事、つまり“学びの時代”の人達や“働きの時代”の人達に、自分もあの様な生き方をしたいと思わせる様な、生きざまの見本を示す総仕上げの期間でもある。実りのある本物の人生が始まるのは、まさしくこの“遊びの時代”だと思っている。

この“遊びの時代”で、新しい事に興味を持ったなら、すぐに実行をして見る事だと思う。

実際には、何かをやるうと思った瞬間に、面倒くさいとか、体がついて行かない等、言い訳が先に出て来るが、私達の“遊びの時代”の人生には限りがあり、思い切って挑戦をして見る事が必要であると思っている。新しい事に興味を持てば、さらに多くの発見が生まれ、やりたい事がさらに増えて来る。年を取ってから習い事やスポーツ等を始める人は、何時までも元気で、若々しくいられるし、スポーツジムのトレーニング

等で身体を鍛えれば、体力も回復し、あらゆる事に挑戦して見ようと言う気持ちも高まって来る。

何から始めていいか分からない場合は、小学生の登下校時の見守りや、気楽に出来る町内の公園の草取り、それに近くの駅や道路等での多くの知識や経験、技能を蓄積してきているし、又余暇を楽しみながら趣味や技芸、教養を身につけているので、その中から生きがいを感じ、自分が夢中になれるものが沢山あるはずである。

又、歴史や自然科学等に興味を持ったなら、旅をして、見聞を広めるのもよいし、趣味、芸術、技能、資格、学問などの練磨向上には、専門的に勉強をするのもよいと思っている。

地域の福祉センターでは、市民の健康推進のための、文化活動や、スポーツ活動等を盛んにやっており、気楽に参加出来るので、それに参加するのも、手っ取り早い。

又地域の社会福祉協議会や団体などに於いては、地域社会への貢献活動等をして頂く多くのボランティアの方を待ち受けている。

どんなボランティアでも、自分を人の為に役立てるボラン新しい事に興味を持てば、さらに多くの発見が生まれ、やりたい事がさらに増えて来る。年を取ってから習い事やスポーツ等を始める人は、何時までも元気で、若々しくいられるし、スポーツジムのトレーニング等で身体を鍛えれば、体力も回復し、あらゆる事に挑戦してし、気持ちも若返って来る。

挑戦と好奇心を持ち続ける事により、若さを保ち続ける事が出来、何時までも楽しく元気でいられ、自分自身のためにもなる。

— 以上 —

フェイスブックで発信する 税金と音楽のお話

福井交響楽団のチャイコフスキー ハーモニーホール福井

藤田 巖

フェイスブックで、税理士事務所の税金のお話と音楽の話を投稿し、税金に関しては 毎日トピックスを作成し、質問にお答えしています。

今回フェイスブックで、福井でのオーケストラの演奏会と市内観光は如何ですかと招待を受け、即座にOK。

IPS細胞の再生医療等により、そう遠くない内に、“人生100年”の時代がやって来る。この長い人生を3つに分けると、

第一ステージは生まれてから社会に出るまでの期間、つまり“学びの時代”である。

この期間は、何かにつけて、保護されている期間である。

第二ステージは、“学びの時代”で得た資源を活用する“働きの時代”である。

この期間は自分で生活を確保しながら、将来に向けての、人的資源と物的資産を残す期間である。

第三ステージは、退役後、自分の人的資源や物的資産を、有効に活用する“遊びの時代”である。

今までは、勉強、会社、家庭等に対しての重荷があったが、これからは、これらの足枷も無くなって来る。自分が常々本当にやりたいと思っていた事、つまり“学びの時代”の人達や“働きの時代”の人達に、自分もあの様な生き方をしたいと思わせる様な、生きざまの見本を示す総仕上げの期間でもある。実りのある本物の人生が始まるのは、まさしくこの“遊びの時代”だと思っている。

この“遊びの時代”で、新しい事に興味を持ったなら、すぐに実行をして見る事だと思う。実際には、何かをやろうと思った瞬間に、面倒くさいとか、体がついて行かない等、言い訳が先に出て来るが、私達の“遊びの時代”の人生には限りがあり、思い切って挑戦をして見る事が必要であると思っている。新しい事に興味を持てば、さらに多くの発見が生まれ、やりたい事がさらに増えて来る。年を取ってから習い事やスポーツ等を始める人は、何時までも元気で、若々しくいられるし、スポーツジムのト

レーニング等で身体を鍛えれば、体力も回復し、あらゆる事に挑戦して見ようと言う気持ちも高まって来る。

何から始めていいか分からない場合は、小学生の登下校時の見守りや、気楽に出来る町内の公園の草取り、それに近くの駅や道路等での多くの知識や経験、技能を蓄積してきているし、又余暇を楽しみながら趣味や技芸、教養を身につけているので、その中から生きがいを感じ、自分が夢中になれるものが沢山あるはずである。

又、歴史や自然科学等に興味を持ったなら、旅をして、見聞を広めるのもよいし、趣味、芸術、技能、資格、学問などの練磨向上には、専門的に勉強をするのもよいと思っている。

地域の福祉センターでは、市民の健康推進のための、文化活動や、スポーツ活動等を盛んにやっており、気楽に参加出来るので、それに参加するのも、手っ取り早い。

又地域の社会福祉協議会や団体などに於いては、地域社会への貢献活動等をして頂く多くのボランティアの方を待ち受けている。

どんなボランティアでも、自分を人の為に役立てるボラン新しい事に興味を持てば、さらに多くの発見が生まれ、やりたい事がさらに増えて来る。年を取ってから習い事やスポーツ等を始める人は、何時までも元気で、若々しくいられるし、スポーツジムのトレーニング等で身体を鍛えれば、体力も回復し、あらゆる事に挑戦してし、気持ちも若返って来る。

挑戦と好奇心を持ち続ける事により、若さを保ち続ける事が出来、何時までも楽しく元気でいられ、自分自身のためにもなる。

— 以 上 —

6月1日 京都駅8時のサンダーバードで福井へ
いざ 出発

福井到着後 昼から 東尋坊へ のどかな眺めを楽しんだのは良かったのですが、帰り道で、道に迷い10人ほど道尋ね、やっとの思いで 三国港へたどり着き、夕方 駅前で、早い夕食の後、さあ演奏会場へ出発。

6時開場で30分前にホールに到着、入場待ちの行列、今日は前から2人目、いい席目指してさあ走るぞ。

◎ドビッシェ 牧神の午後への前奏曲

フルートにプレッシャーかかる曲ですが 友人がホルン吹いていて そっちの方で、はらはら。

◎エルガー チェロ協奏曲

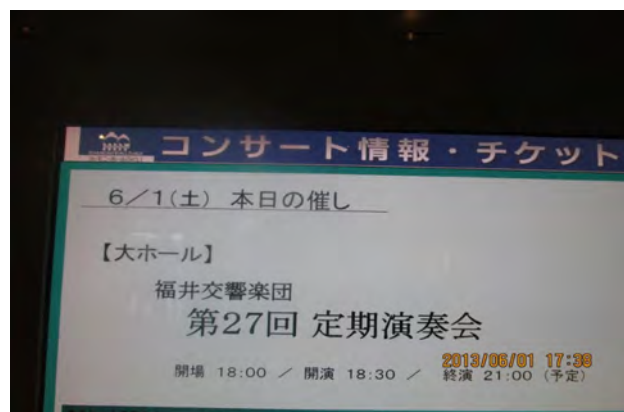
うまいチェロにうっとり

◎メインのチャイコフスキー交響曲4番

いつもオーケストラが、しゃかりきに頑張る曲ですが、ホール やや響きまろやかでいい感じ。これが福井のチャイコフスキー？

フェイスブックに 演奏会の感想載せましたが、いつもより 多い イイネとコメント。

その帰り、のどかな田園の中、電車ゆつくりと福井市内へ。



6月2日8時 永平寺に向かって 出発

永平寺 電車の駅から お寺まで徒歩で1時間半らしく歩く、人一杯。

永平寺でのお参りのあと、おみやげを皆に発送。永平寺で飲んだ 銘水 体に 効いたかな？

昼から福井城跡の見学。休日でのどかな県庁街。

夕方 サンダーバードで 京都へ。

今回も楽しい演奏会でした。

— 以上 —

東日本大震災でのボランティア活動について

石黒 英憲

東日本大震災が発生して早や2年超が過ぎました。以前より、小生はこの大震災に被災された人たちに少しでもボランティアができれば、・・・と考えておりました。

しかし、高齢者となった今、ボランティア活動などもう体力的に無理。と、その機会がだんだんと遠くなっておりました。が、この度、高校時代のサークルの有志が呼び掛けてくれました。そこで、5月25日(土)より現地に行ってきたのでご紹介します。

まず、震災の被害が比較的小さかった宮城県の松島に集合しました。ここは多くの島のお蔭で、津波による被害が非常に小さかったのです。しかし、風評により観光客が激減しています。ここのホテル大観荘で宿泊し、そこにボランティアで頑張っておられますグループの代表の方々を招い



【全員が助かった立脇小学校
この樹の下(崖の下)に有った】

て、その様子やボランティア活動を行う際の注意点などの講演をして戴きました。

特に気づいたことは、阪神大震災の時には、「被災者にその苦労話や困ったことなどを聞いてあげて、その被災者の気持ちをすっきりさせてあげる。」でしたが、現在は、「向こうが話したくなったら聞いてあげる。こちらからは話を向けない。」そして、「ボランティア、消防団員や公務員など、現地で頑張っておられる方々で、精神的な障害が出ている方の心のケアを何とかしてあげなければいけない。」と、いったことでした。

翌26日は、子供たち多数が津波にのみこまれた大川小学校跡や、避難場所が燃えてしまったのに、全員が助かった立脇小学校跡などを見て回りました。この違いは、自然、特に地形が非常に大きく影響していることを、感じました。大川小学校は海から遠く、立脇小学校は海が見えるところにあるのです。どちらも、最上階まで津波が来たのですが。現地では、すでにながれきなどは撤去されており、更地になっているところがほとんどでしたが、車が入ったまま建物がひっくり返ったその被害の大きさを感じさせるものが今も残されていました。

ボランティアの団体バスは今も何台も走っており、道端の花壇の手入れや被災者への支援活動などに頑張っておられました。

我々は、観光客の減った宮城蔵王と那須高原でも宿泊をして、自然災害に比較的強い京都に住んでいることに感謝しながら帰ってきました。ぜひこの方面のボランティアを希望されます方は、ご相談ください。



【津波で壊れた大川小学校。
後ろの山の向こうに海がある。】



【津波でひっくり返った交番】



【津波で車庫に車が入ったまま倒れたスーパー】

— 以上 —

2007年9月本社定年退職 2008年4月HEで現地採用され、HE-DARMSTADTに勤務 2013年7月末に退職し帰国する予定です。1975年堀場入社、1979年に第1次海外研修制度の3期生としてHIIに派遣され、米国でシャシダイナモメータ(シャシダイ)を開発しました。それ以来シャシダイがライフワークになりました。この経験を買われ、HEでのシャシダイの開発と技術サポートのためHEに再就職しました。

ドイツでの仕事の内容は旧シエンクでは持っていなかった排ガス計測用のシャシダイのノウハウを提供し、開発、製品化、改良のアドバイスを行うこと、新規引き合いに関連した顧客からの特殊な要求、質問や、顧客クレームについての内容把握、対応基本方針の立案、詳細な技術説明の準備などを行うことです。新しい排ガス規制の原案をレビューし、意見を提出したり、規制にともなってシャシダイに要求される機能追加や性能改善内容を調査し、対応方法についてのアドバイスも行っています。

◇ドイツと日本の習慣の違い

・労働時間と休暇について

個別に週当たりの労働時間が契約で決められ、時間超過は基本的に認められません。

残業が必要な場合、通年単位で総労働時間

が契約時間となるように、随時自分で就労時間を調整します。有給休暇は法定で30日付与され、取得を強制されます。通常3週間を2回とることが多く、事前に休暇の間に仕事がたまらないよう調整をします。休暇の習慣はヨーロッパで共通しているの、相手が休暇を取ることに寛容で、休まれても文句はいいません。社員に有給を消化させられない会社には処罰があります。

この習慣の差が日独の生産性の違いとなって現れているようです。病欠休暇は別枠で準備され、3日以上病欠の場合は医師の就労免除の指示書に従って病欠休暇をとります。日曜と祝日は就労禁止日で、レストランや駅を除いてほとんどの店が休みます。

日曜日には町を散歩したりする人が目立ちます。ショッピングモールなども、建物には入れ、ウインドウショッピングだけが出来る場合が多く、最初は不思議に思いました。

◇ドイツ人と仕事をしていて感じたこと。

ドイツ人は議論好きで、なんでも理屈をつけたり、白黒をはっきりさせようとします。わからないことがあれば納得できるまで徹底的に食いついてきます。

— 以上 —

【右写真の説明: Schenck買収後に開発したシャシダイナモ第1世代 VULCAN とトヨタ車を組み合わせた写真。トヨタとの共同研究結果をドイツの専門誌に論文投稿したときのメインの写真。】



(次ページに続く)

【右写真の説明:チェコのOlomouc工場の製造風景 2012年にダイナモ組み立て工場として新設シャシダイナモの作番設計と製造部隊を移管VULCAN IIの量産体制が整った。】

(追記)

(野口さんは、7月末に帰国され、8月から堀場製作所で、堀場製作所と、HEの仕事を継続しております。)



OB会だより

－ 堀場OB会ホームページ紹介 －

堀場OB会のホームページはクラブ活動をはじめ各種の行事案内、活動報告を掲載しています。訪問件数は2万件を超え多くの会員に見ていただいていると思います。

より魅力あるホームページにするために会員からのご意見、ご提案をお寄せ下さい。

◆ホームページアドレス

<http://www.h5.dion.ne.jp/~ob-hor/>

◆堀場OB会メールアドレス

horiba.ob@gmail.com

会員にお届けしている会報は、モノクロ版ですが、ホームページにはカラー版の会報を掲載していますのでご覧下さい。

ホームページの会報閲覧は個人情報保護のため会員以外の方が閲覧出来ないようにパスワードで保護しています。閲覧は、トップページの「会報」ボタンをクリックするとパスワード入力の画面が表示されますので、下記のパスワードを入力していただくと会報のリスト画面に変わります。

◆会報閲覧パスワード horibaob

－ 新入会員紹介 －

平成24年10月以降に入会された会員を紹介します。(敬称略)

会員番号 1701－笠川 重美、1702－松本 勲、1703－竹内 幸雄、1704－渡辺 正資
1705－河合 治男、1706－土肥 守、1707－峰野 幸弘、1708－右近寿一郎
1709－大久保義一

－ 年間行事計画について－

第17期の年間OB会行事についてはホームページに「年間行事予定表」を公開していますが、会員の皆様に参加いただく行事を紹介しします。

- ◎ 鴨川を美しくする会
 - ・ 鴨川クリーンハイク(年間5～6回の予定)
 - ・ 鴨川茶店(4月6日、7日の予定)
 - ・ 鴨川納涼(8月3日、4日の予定)
- ◎ 工房学習支援(年間:7～8回の予定)
- ◎ 一泊(日帰り)旅行(2月～3月の予定)

- ◎ 夏の懇親会(8月24日)
- ◎ 春の懇親会(2月2日)
- ◎ レジャー例会(4月、6月、11月の予定)

開催日が決定した行事についてはホームページまたはメールにて紹介させていただきますので参加いただくようお願い致します。行事内容の詳細は、事務局にお問合せ下さい。

◆事務局 山本広太郎

E.Mail:h.yamamach@gmail.com

— 会報・ホームページへの寄稿要領について —

会報への寄稿文、ホームページへのクラブ動、ボランティア活動等の諸活動報告をされる場合に長文では取扱いに苦慮する場合があります。

このため、文字数の上限を下記の通り取決めさせていただきますので協力いただくよう宜しくお願い致します。

◆会報へ寄稿文

1500文字以内(写真を1枚～2枚添付して下さい)

◆ホームページへの活動報告

800文字以内(写真を1枚～2枚添付して下さい)

会報、ホームページ共に文字だけでは読者に伝える力が弱く、写真によって情景を読者に印象付けるものであり、必ず写真を添付いただくようお願い致します。

活動報告は行事終了後、直ちに報告いただくようお願いいたします。

◆寄稿文の募集

会報に掲載する寄稿文を募集しています。

テーマは特に定めていません。

<旅行の感想>、<地域での活動>、<地域の社寺仏閣の紹介>、<地域の祭り>など身近なテーマを気軽に寄稿いただきますようお願い致します。

投稿者にはささやかながら「図書カード」を進呈させていただきます。

会報は毎年1月と7月に発行しますので11月、5月を目途に提出いただくようお願いいたします。

◆著作権について

・書籍から引用の時は出典を明記して下さい。

(発行元、書籍名、著者)

・新聞からの文面、写真の引用は新聞社の承認を必ず得て下さい。

◆送付先

事務局 〒525-0057

草津市桜ヶ丘1-8-6 山本広太郎

h.yamamach@gmail.com

— OB会入会手続きについて —

OB会未加入の方が入会を希望される時は、入会申込書をOB会に提出していただき、入会承認の後、入会費、年会費を納入していただき、正式なOB会員として登録される手順となります。

従来、入会手続きは、入会希望者の声を聞いたOB会員が、代表幹事にその旨を伝え、入会申込書等を入会希望者に手渡し(郵送)していましたが、この度、OB会ホームページより「入会申込書」をダウンロード出来るようになりました。

■手続きの手順

- ①「入会登録書」「入会のお誘い」をダウンロードする。
- ②「入会登録書」に必要事項を記入し、メール添付または郵送にてOB会事務局に提出する。

出する。

- ③事務局審査の後、入会金、年会費納入の振込用紙、OB会資料を入会希望者宛に送付する。
- ④入会希望者は振込用紙にて郵便局より振込。(手続き完了)

OB会員の皆様へ

皆様の周辺で、未加入の退職者がおられましたら入会の勧誘をぜひお願いします。

堀場OBホームページトップページの「OB会入会手続き」のアイコンから入会申込書をダウンロードし、「入会のお誘い」に記載されている手順で手続きを行うよう積極的に案内をお願い致します。

ー HOR創立60周年記念式典開催 ー

2013年1月26日国立京都国際会館にて60年のおもいが染み込んだ「TASUKI」をホリバリアンに伝えていく新たな門出を全員で誓いました。

第1部「60周年記念式典」堀場社長のオープニングスピーチでは「創立60周年を迎えた今年、人間で言えば還暦、企業においては第二の創業としてOne Step Upする年である。」と。

また、堀場最高顧問からも「HOR創立時、困難な立上の際に多大な努力をしてくれたOBのホリバリアンなくして今のHORはありえない」とメッセージがありました。

第2部「Global Communication」では世界各国の鍋を囲んでの昼食会がスタートし海外ホリバリアンが登場しての交流会の開催で大いに盛り上がりました。

第3部「TASUKI」では「ONE HORIBARIAN」イベントでメッセージたすきが完成し、堀場社長による未来への宣言が行われました。

最後に全HORグループの英語の社歌であるOne company Song(Joy&Fun)の大合唱でフィナーレを迎えました。

《未来への宣言》の内容

「One past, One future, One HORIBAー
現在のHORIBAブランドは創業以来の地道

な積み重ねの結果、形成されたかけがえのないものです。先輩社員が築き上げた資産の真の価値を理解し、次世代に伝え、時代にあった新しい価値を付加し、熱い思いとともに「TASUKI」として繋いでいってくれることを強く期待します」

ー 取締役副社長に齊藤壽一氏就任 ー

3月23日付けて齊藤壽一氏が新たに副社長に就任されました。

これで当社の取締役及び監査役は

代表取締役社長(会長兼任)	堀場 厚
代表取締役副社長	石田耕三
取締役副社長	齊藤壽一
常務取締役	佐藤文俊
取締役	杉田正博
監査役(常勤)	宇野敏彦
監査役	石角完爾
監査役	石田敬輔

となります。

ー 堀場エステック京都福知山テクノロジーセンター建設開始 ー

STECの流体制御技術や機器の開発に特化し、最先端の半導体プロセスに対応する流体制御機器の開発促進を目的とした研究開発拠点として、起工式が7月16日に行われました。

(Joy&Fanより抜粋)

編集後記

今回の第34号から、新たな編集員として、3名がチャレンジしました。堀場製作所の60周年でもある今年にOB会会報誌を次の世代のOB会に「TASUKI」を渡し、維持・継続する為に、挑戦させて頂きました。

初めてのことばかりで、編集作業に手間取り、7月末を目指しておりましたが、8月末に校了する処となりました。ご迷惑を掛けてしまいました事をお詫びいたします。しかしながら、今回の経験は次号以降への編集作業に対して、何とか自信を持てる状態に至りました事をお伝えして、ご安心を頂きたいと思えます。

まだまだ、先輩方の築いて来られた事を継承し、維持・発展させていくためには少なからず苦勞をするかもしれませんが、正に次の世代に向けて「先輩が築き上げた資産の真の価値を理解し、次世代に伝え、時代にあった新しい価値を付加し、熱い思いとともに「TASUKI」として繋いでいく」という言葉をOB会の立場で実感し、身の引き締る思いが致します。

読者のOB会会員の皆様に置かれましても、今後共この会報誌の継続発展に向けて、御支援・御協力を頂きますよう編集者一同、心からお願い申し上げます。関係者の努力にお礼申し上げます。(編集担当)

* 堀場製作所OB会 *
* 〒601-8510 *
* 京都市南区吉祥院宮の東町2番地 *
* 株式会社 堀場製作所内 OB会室 *
* URL <http://wwwh5.dion.ne.jp/~ob-hor> *
